

不妊に悩む当事者の交流会「ウイング交流会in延岡」への取組

○片平 久美 日高 良雄（延岡保健所） 淵本 一美（井上病院）

1 はじめに

不妊に悩む当事者は、不妊であること自体の苦悩、家族間の葛藤や悩みに加え、社会の中での生きにくさ、高額な治療費、治療成果としての妊娠の不確かさ、インフォームドコンセントやカウンセリング体制の遅れなどからもたらされるストレスに、長期にわたり晒されている¹⁾。

延岡保健所では平成21年度、不妊に悩む当事者が悩みや苦しみを語り合い、グループダイナミクスにより不安や悩みが軽減し、自分らしく人生に向き合えるようになることを目的に「ウイング交流会in延岡」を試行的に開催した。

今回、交流会を振り返るとともに、表出される機会が少なかった当事者の悩みや苦しみをまとめたので報告する。

2 延岡保健所における特定不妊治療費助成事業及び不妊相談状況

表1 特定不妊治療費支給件数および不妊相談件数

| 年度 | 特定不妊治療費支給延件数 | 不妊相談延件数 | 相談回数 | 平均相談件数 |
|--------|--------------|---------|------|--------|
| 平成19年度 | 59 | 35 | 21 | 1.7 |
| 平成20年度 | 56 | 62 | 23 | 2.7 |
| 平成21年度 | 55 | 106 | 23 | 4.7 |

3 交流会開催の動機

- ・特定不妊治療費助成給付金申請時及び不妊相談電話等において「ウイング交流会」が中央保健所で開催されているが、遠方のため参加しにくいという声が上がった。
- ・特定不妊治療費助成給付金申請者（以下申請者とする）の多くが、他の不妊治療者の状況が気になりながら、互いの交流を持っていないことがわかった。
- ・自助グループの効果は他分野で実証されており、不妊治療者にも必要であると思った。

4 交流会開催の準備と注意したこと

- ・平成16年度以降の申請者88名と管内産科医療機関及び全保健所に「ウイング交流会in延岡」開催案内を郵送した。
- ・郵送に際し、家族に知られたくないという当事者の気持ちに配慮し、公用封筒ではなく市販の封筒を使用するとともに、年間開催日を記載し個人通知は1回だけとした。
- ・怒り、悲しみ、不安、喪失感、孤独感などのマイナス感情を吐露するためのミーティングをプログラムの中心に据えた。
- ・雰囲気や和らげ、季節感を感じられるよう会場には毎回、季節の草花を飾った。

5 交流会開催の状況

日時：偶数月の第3木曜日、午後1時30分から3時まで

場所：延岡保健所相談室

内容：自己紹介カード作成、自己紹介、アイスブレイク、ミーティング上のルール説明、ミーティング、不妊治療・その他に対する質疑応答

スタッフ：ウイング相談員（不妊カウンセラー）1名、保健師1名

交流会の開催状況は、表2のとおりである。保健師がファシリテーター、相談員が観察及び記録を担当した。コーヒー、紅茶、キャンディの他、ティッシュペーパーを準備した。

表 2 交流会開催状況

| 回 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-------|------|------|-------|-------|------|
| 開催月日 | 6/18 | 8/20 | 10/15 | 12/17 | 2/18 |
| 参加者数 | 6 | 2 | 4 | 2 | 1 |
| スタッフ数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |

6 交流会で語られた悩み・苦しみ

(1) 外側から生じる苦しみ

- ・子どもや孫を求めるパートナーや親及び親族の期待や圧力
- ・子どもを育てて「一人前」とみなす社会風潮
- ・少子社会における出産奨励、最近では子ども手当金への抵抗

(2) 内側から生じる悩み・苦しみ

- ・自責の念及び女性（男性）としての自信喪失
- ・パートナーや親に対する罪責感
- ・描いていた人生イメージの崩壊感
- ・里親への葛藤
- ・ショック、不安、焦り、怒り、喪失感、悲しみ、孤独感、無力感

(3) 医療を巡る葛藤

- ・検査や不妊治療に伴う心身の苦痛および治療の選択をめぐる葛藤や不安
- ・不妊治療と仕事の両立の困難性
- ・経済的負担の大きさ及び遠距離通院の疲労
- ・パートナーとの意見の違い・気持ちのずれ
- ・医療従事者から受ける言葉や態度からの傷つき

7 考察

交流会では、当事者の生の声を聴くことが出来た。これは支援する側として非常に有益であり、特定不妊治療費助成申請時にも話をよく聴けるようになった。参加者からは「今まで不妊に悩んでいる人と話すことがなかった」「他の人の意見が参考になった」「悩んでいるのは自分だけではないことがわかり安心した」という声が上がった。一方で、事前に当事者のニーズ調査をしなかったこと、積極的且つ頻繁な広報をしなかったこと、平日の開催であったこと、メインテーマをグループミーティング主体にし、“お楽しみ会”的要素を省いたこと等によるためか参加人数が増えなかった。

平成22年度はこれらの反省を踏まえるとともに、ミーティングの評価について参加者の感想だけではなく客観的な指標を用いて検討していくことが必要であると考えている。

8 おわりに

延岡保健所は、特定不妊治療費助成事業の他、不妊サポート事業で不妊相談を実施し、当事者同士の交流会も開催するなど不妊に悩む人たちとより深く関わった。「交流会案内ポスターをどこに掲示すれば皆さんの目に届くのか」との問いに「私達は産婦人科では常に下を向いており、ポスターなど見ない。産婦人科の壁は赤ちゃん用品で飾られ眩しくて見れない。レジの近くなら見るかもしれない」との回答に愕然とした日が忘れられない。

交流会で吐露された当事者達の本音、医療従事者や行政に対する不満・批判など、あらゆる機会を通じて関係者に伝え、今後の不妊治療者支援をすすめていきたい。

(参考文献)

- 1) 森明子他:不妊患者支援のための看護ガイドライン 聖路加看護大学母性看護・助産学研究室.2001.
- 2) 森明子他: My Dear あなたの身近な人が不妊で悩んだら 聖路加看護大学母性看護フィナンシャルの会.2007